

いずみ もり  
泉が森



泉が森は、奈良時代に編纂された常陸国風土記の  
久慈郡密筑の里の条に「密筑の大井」として記された  
歴史ある美しい憩いの場です。

常陸国風土記に、かつてこの場所では「夏の暑き時、  
遠邇の郷里より酒と肴とをもちきて、男女会集いて、  
休い遊び飲み楽しめり。(暑い夏の日、涼しい泉のため  
とに若い男女がおいしい食べ物やお酒を持って集まっ  
て楽しい時間を過ごしていた。)」と記されています。  
当時から出会いの場であった泉が森は、知る人ぞ知る  
恋愛のパワースポットとなっています。

白い砂をもくもくと吹き上げながら、こんこんと湧  
き出る泉の水温は1年を通して13℃前後で、夏は冷た  
く冬は暖かく、自然の恵みを感じられます。

泉神社の創建は不明ですが、祭神である「天速玉姫  
命(あまのはやたまひめのみこと)」の「速玉」とは清  
く澄んだ泉を意味することから、「密筑の大井」が神格  
化されたものであると考えられています。この湧水は、  
2008(平成20)年に「平成の名水百選」に認定されて  
います。



泉神社の祭神である天速玉姫命に関わる伝説があり、「はるか昔、この  
森に神社も泉もない時代に、密筑の里では日照りが続き、雨乞いの祭  
をしたところ、天から人間の頭ほどの水晶玉が降ってきて、落ちた場  
所から泉が出た」と伝えられています。



常陸国風土記の書かれた時代から  
今も、周囲には常緑樹が生い茂り、  
中央には弁財天を祀る祠がありま  
す。

泉神社には、水につけると文字が  
浮かび上がる「水みくじ」があり、  
湧水につけるものは全国でも泉神  
社だけです。

<基本情報>

【所在地】 日立市水木町 2-22-1 (泉神社 0294-52-4225)

【出典等】

- ・柴田勇一郎『ひたち地方の伝説—郷愁の伝承誌—』、日立市民文化事業団、1977
- ・柴田勇一郎『日立の伝説』、筑波書林、1985
- ・日立市郷土博物館『新郷土日立 歴史』、日立市郷土博物館、2007
- ・日立市郷土博物館『常陸国風土記にみる日立』、氷川書房、2013
- ・泉神社 HP『泉神社について』 <https://izumi-jinja.com/about.html> (2021/1/26)